「挑戦止まると進化止まる」

対面で入社式、コロナ後に視線

小売り・サービス・飲料

ＪＡＬグループ入社式で紙飛行機を飛ばす新入社員（３日、都内）

新年度の仕事始めとなった3日、主要企業が入社式を開いた。新型コロナウイルスの感染状況が落ち着き、4年ぶりに対面など昨年までとは異なる形で入社式を開く企業が目立った。経営者からはアフターコロナを見据え、事業環境の変化に対して挑戦する姿勢を求める声が相次いだ。

セブンーイレブン・ジャパンが都内で開いた入社式では、全新入社員1032人が1カ所に集まる形式を採り入れた。永松文彦社長は「今年は創業から50周年だが挑戦の歴史だった。挑戦が止まると進化も止まるため、人々の生活にあれば良いなと思う潜在ニーズを顕在化していってほしい」とあいさつした。

新入社員の大路拓真さん（22）は「新型コロナでコンビニの使われ方は変わっており、変化に対応していきたい」と語った。

日本航空（ＪＡＬ）も羽田空港近くでグループ37社合同で開いた。赤坂祐二社長は祝辞で新型コロナ禍からの回復に触れ「新しい時代に航空本来の役割を取り戻すとともに、社会に求められる航空の新たな役割、価値を生み出せるように一緒に頑張っていきましょう」と呼びかけた。約2000人の新入社員自らが決意を記した紙飛行機を飛ばした。

マスク着用を緩和した企業も多かった。東京都多摩市の会場で296人の新入社員を迎えたＫＤＤＩの高橋誠社長は「4年ぶりにマスクの着用を要請しない形で開き、皆さんの顔を見ることができ、非常にうれしく感じる」と述べた。新型コロナウイルス禍でデジタル化が進み「あらゆるものに通信が溶け込む時代になってきている」と強調した。

アサヒグループホールディングス（ＧＨＤ）傘下のアサヒ飲料は、入社式に先駆けて業務体験のイベントを催した。アサヒ飲料の新入社員62人は3日午前、東京スカイツリー（東京・墨田）で新商品のサンプリングを手がけた。米女太一社長と一緒になり、少し汗ばむ青空の下で行きかう人に声をかけて社会人の第一歩をかみしめていた。

都内で開いたアサヒＧＨＤのグループ合同入社式も完全対面形式だった。勝木敦志社長は「皆さんの新たな知見、経験、考えがコロナ後の新しい世界を作ることに役立っていくと期待している。ともに未来をつくっていきましょう」と語りかけた。

キリンホールディングス（ＨＤ）の磯崎功典社長は「お客様や患者の支持・共感がなければ企業は存続できない。お客様の価値観はどんどん変わっている。自分の持っている価値観をずっと続けられるほど世の中は甘くない」とあいさつ。「社会がどう変わっているかを常に肌で感じ取ることが大事だ。現場は情報のお宝だ」と発破をかけた。

（篠原英樹、逸見純也、原欣宏、河端里咲、八木悠介）

アサヒ飲料の新入社員が参加したサンプリングイベント（３日、都内）

掲載日 2023年4月5日 日経MJ 9ページ ©日本経済新聞社 無断複製転載を禁じます。